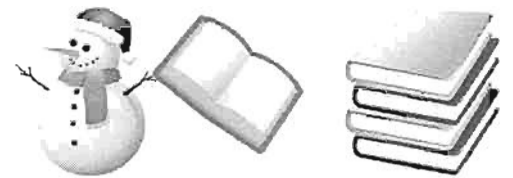


図書館の扉-12月号-

テーマ:冬

図書委員編集部からのオススメ本



「デビクロくんの恋と魔法」 中村航

優しいけれど少しヘタレな絵本作家志望の書店員である主人公・光。

彼には裏の顔があった。それは、夜になると「デビクロ通信」という謎の手製ピラを撒く「デビル・クロス」。

そんな光に、ある日運命的な出会いが訪れて。最後にはほっこりとした気持ちになれる恋愛小説です。



「ホーンテッドキャンパス 幽霊たちとヨコレート」 榎木 理宇

誰もいないのに訝かに見られているような気配、人の顔のように見える壁のシミ、死んだ友人からの手紙…。あなたはこんな怪奇現象に直面したことはありますか？この話はそんな怪奇現象の謎を追う「オカルト研究部」と「霊」が視えてしまう八神森司の日常を描くミステリー小説です。ホラーが好きなお人も、ちょっと苦手なお人も楽しめる内容となっています。ぜひ、読んでみてください。



「ボトルネック」 米澤穂信

この本は、「主人公が生まれなかった世界」をテーマに描かれています。一見難しそうに思えるかもしれませんが、分かりやすい表現が多いので、読んでいて共感できる部分がたくさんあります。人によって様々な解釈ができるので、是非読んでみてください。



「疾風ロンド」 東野圭吾

ある大学の研究所から新型の病原菌が盗まれた。病原菌は秘密裏に作られた生物兵器！警察に知られずに取り戻すため、雪山に埋められているという手掛かりをもとに研究所の栗原は息子の秀人とともに里沢温泉スキー場に向かう。果たして無事に生物兵器は取り戻せるのか？この作品は映画化もされ11月に公開です。原作を読んで映画を見るのも面白いですよ！



「風が強く吹いている」 三浦しをん

「走るの好きか？」清瀬灰二に問われた蔵原走は竹青荘に連れて行かれる。そこで出会った8人を加え、1年をかけて箱根駅伝を目指す。前半部分では長距離走とは何か、箱根駅伝とは何かを丁寧に描かれています。後半部分では予選会、本戦と展開していき、読んでいくほどドキドキします。そして、とても興奮します。駅伝をよく知らない人でも楽しめる物語です。



「ホワイトアウト」 真保裕一

この本は、日本最大の貯水量を誇るダムが武装グループに占拠され、職員、麓の住民を人質に、要求は50億円、残された時間は24時間。同僚と、かつて自分の過失で亡くした友の婚約者を救うために今、一人の男が立ち上がる…！という設定のアクション・サスペンスです。とにかく描写力があり、緊迫感溢れるストーリー展開は手に汗を握ります。この冬にぜひ読んでみてください。



「一億百万光年先に住むウサギ」 那須田 淳

皆さんは、「宇宙」に興味がありますか？この、一億百万光年先に住むウサギは夜空の星々を磨いて依頼人の恋が本物なのかどうかを占う、星磨きの仕事をしています。主人公の大月翔太とこのウサギ、意外と縁があるみたいです。そして、最後に、ケイが失踪してしまいます。果たして、ケイは、どこで何をしていたのか？展開が読めない1冊です。「星磨き」やってもらいたいものですね。



「猫たちの冬」 ヴォルフガング&ハイケ・ホールバイン

少年ユスティンは魔女みたいな祖母と両親、十匹の猫たちと一緒に平和な町クライスフルデンに住んでいた。ところが祖母の転倒事故をきっかけに町で不思議なことが次々に起きて…。この物語の魅力は何と言っても猫たちの描写です。猫たちの様子が非常に細やかに書かれています。また、遺跡や町の歴史も物語の展開に重要な役割を果たします。本格的な歴史小説を読もうと思っている人は屏風らしに読んでみてはどうでしょうか。



「ソードアート・オンライン 2 アイクラッド」 川原 礫

「ソードアート・オンライン」という名のデスゲームが始まってから5ヵ月が経過したある日、主人公「キリト」は、とあるギルドに出会う。その半年後のクリスマスの日にキリトは、ソコでイベントのボスに挑む。アニメ化、ゲーム化され、来年映画化される「ソードアート・オンライン」シリーズの第2巻。短編集の為読みやすいですが、設定が少し分かりにくいので、1巻から読むのがオススメです。



十二月は冬休みに入るの、課題の息抜きに読んでみてくださいね！